四国新聞　令和８年５月６日（水）

県民とうどん関係を一冊に

うどん研究会前会長・諏訪さん

調査など基に■歴史も記述

多角的な視点から讃岐うどんを取り上げ、一冊の本にまとめた諏訪さん

さぬきうどん研究会前会長（現顧問）の諏訪輝生さん＝高松市＝が讃岐うどんの歴史や文化についてまとめた本「香川県伝統の食文化『讃岐うどん』の継承と発展」を出版した。研究会が実施したアンケートや諏訪さんがこれまでに収集したうどんに関する資料を基に「県民がいかにうどんを愛しているか」や「県民のうどんの食べ方の変化」などを解説。讃岐うどんを文化として継承し、さらに発展させるための提言もしている。

諏訪さんはＪＲ四国グループのうどん店「めりけんや」の元社長で、２０１６年から24年まで同研究会の会長。全国での講演や、県庁の新任職員向けの研修で講師を務める中で集めた資料やデータをまとめ、一冊に仕上げた。

本では、香川大教授で研究会初代会長を務めた故真部正敏さんが１９８３年に県民約４千人を対象に行ったうどんに関する意識調査などを通して、40年以上前から週に複数回うどんを食べる県民が珍しくないこと、80年代はうどんを食べる場所で最も多いのが店舗ではなく家庭だったこと、21歳以上は最も好きな食べ物がうどんだが、20歳以下はラーメンであることなどを紹介。80年代のうどん店は通常の飲食店のようなフルサービスが多く、今の店舗の多くが採用するセルフ方式が全体の2割程度だったことも取り上げている。

このほか、うどんの起源についての諸説、うどん店誕生の歴史、讃岐うどんが生まれた気候や風土なども解説。食文化としての讃岐うどんを未来に継承するには「県民が『健康的に食べる』ということを意識し、実行し続けることが肝要」と提言している。Ｂ５判、１６０ページ。定価２２００円で県内の書店やインターネット通販で販売。問い合わせは諏訪さん〈０８０（４０８４）０７８３〉。